

子育て応援とうきょう会議（第16回全体会議）

令和2年2月10日

【遠藤子供・子育て施策推進担当部長】 定刻でございますので、ただいまから子育て応援とうきょう会議第16回全体会議を開会いたします。

委員の皆様には、大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

私は、子供・子育て施策推進担当部長、遠藤でございます。冒頭の進行を務めさせていただきます。着座させていただきます。

本会議でございますが、会則第13条の規定に基づきまして、原則として公開で行うこととなっております。配付資料、議事録につきましては、後日、ホームページで公開させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、最初に、昨年7月に開催いたしました前回の全体会議以降、1名の委員の交代がございましたので、新たに着任されました委員の方を御紹介させていただきます。

吉田久司委員でございます。

【吉田（久）委員】 民生委員から出ております吉田です。よろしくお願いいたします。

【遠藤子供・子育て施策推進担当部長】 その他の委員の皆様につきましては、資料1、委員一覧をもって御紹介にかえさせていただきます。

次に、定足数でございますが、今、少し到着の遅れている委員の方がいらっしゃいますが、本日は、委員30名中、代理出席の方も含めまして22名の委員に御出席との返事をいただいております。定足数に達することを御報告させていただきます。

続きまして、東京都の出席者でございますが、資料2をもちまして紹介にかえさせていただきます。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。本日は、会議次第のほか、資料1から7までお配りしてございます。また、資料7の後に、第2期の東京都子供・子育て支援総合計画のパブリックコメントについての資料を置かせていただいております。大変恐縮でございますが、ホームページ等を御覧いただきまして、御意見があれば、2月28日までにお寄せいただければ大変ありがたく存じます。資料の過不足等がございましたら、都度、職員の方までお声がけをいただければと存じます。

次に、御発言の際のマイクの使用方法でございます。お手元のマイクの下にボタンがござ

います。このボタンを押していただきますと、マイクがオンになります。発言の際はこのボタンを押していただきまして、発言が終わりましたら、再度ボタンを押していただければマイクはオフとなります。よろしくお願いいたします。

それでは、この後の議事進行を松田会長、よろしくお願いいたします。

**【松田会長】** それでは、改めまして、皆様方、どうもこんにちは。本日はお忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。では、ここからは私が進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

私が勤めております大学は、今、卒業論文とか修士論文とか、そういうものを出すようなシーズンなんですけれども、そういう中でたまたま少し話題になっていましたのが、人のつながりの中でがっちりスクラムを組んで進んでいくという強いつながりの部分と、普段離れてはいるんだけど、共通に目標を持って情報を交換し合いながら緩やかに全体で進んでいく弱いつながりという2つの面があって、一般には、つながりといいますと、もちろん強いつながりがまず前面に立って力を発揮するんですけれども、一方で近年、非常に見直されてきていますのが、弱いつながりの持つ強さというようなことが話題になっておりました。

弱いつながりの持つ強さというのは、例えて言いますと、転職なんかを考えたときに、自分のことをよく知ってくれている強いつながりを持つ人から情報を得る場合はもちろん力強いんですけれども、一方で、全く自分のことを知らない人からの情報というのが、実は転職の場合、有効な情報になるという研究もあつたりします。

それはなぜかといいますと、転職の場合は、全く自分を変えていきたいということを思っているんで、逆に強いつながりの中だと、その時点でオミットしちゃうというか、フィルターにかけてしまうんですね。そういう意味で、自分の知らない世界への出会いというのは、むしろ弱いつながりの中での情報の方が強く作用する場合があります。そんなようなことなんですけれども、本日は子育て応援とうきょう会議でございますけれども、それぞれに子育ての応援ということをしてくださっている皆様方が、こういう形でネットワークを組んで進んでいくというのは、ある面、力強さとともに、そういう弱いつながりの持つ強さというものをさらに広げていくようなことなのかなということをちょっと思っておりましたので、御挨拶の代わりに一言お話しさせていただきました。

それでは、これより議事に入らせていただきたいと思います。

まず、次第に沿いまして、報告事項1番、「令和元年度の主な取組」についてでございます

す。

それでは、事務局の方から御説明をお願いいたします。

【事務局（加藤）】 事務局を担当しております福祉保健局の少子社会対策部計画課の加藤と申します。

私からは、当会議の事務局が管理運営を行っております東京都内の子育て情報サイト「とうきょう子育てスイッチ」の改修について御報告させていただきます。配付資料はございませんので、スクリーンを使って実際のサイトのページを御覧いただきながら、簡単に御説明させていただきたいと思っております。

まず、今回の改修ですが、まずはサイトの操作性や機能性の向上を図っております。近年は、スマートフォンからのアクセスが主流となってきておりますので、スマートフォンからでも利用しやすいような仕様にしています。

また、当サイトは、従来から1つのページの中に協働会員などをはじめとした子育て支援者向けのコンテンツと子育て当事者向けのコンテンツとがございまして、それぞれを更新したり充実させていく中で情報量がかなり大きくなってまいりましたので、サイトを2つに分割して整理いたしました。

子育てスイッチのトップページに初めてアクセスしたときに表示される画面で、利用対象のサイトを選択することもできるようになっております。子育て支援者向けのコンテンツは、昨年度大きく手を加えておりますので、今年度は、子育て当事者向けのコンテンツの改修を行っております。

こちらが、ページ分割後の子育て当事者向けサイトの新しいページでございます。こちらのページ上部にございますのが、サイトの中でも比較的、更新頻度の高いコンテンツを配置しております。日々、動きのあるページであることを利用者の方に印象づけるようになっております。主に、子連れで参加できるイベントのレポートやお出かけ情報などの、民間の子育て情報サイトにもございますような、比較的、気軽にふらっとごらんいただけるような内容のものになっております。

戻りまして、「行政サービス」とございますが、都内の自治体における子供や子育てにかかわる行政情報の検索機能や都内の保育所情報の一覧、またオムツ替えや授乳スペースなどが検索できる「赤ちゃん・ふらっと」など、東京都が運営する子育て情報サイトならではのコンテンツをこちらには充実させております。

そして、お知らせ一覧がございまして、最後にSNSのアカウントでございます。接続環

境の影響でツイッターの方が切れてしまっているんですけども、従来からフェイスブックやツイッターでの発信は行っておりましたが、こういったSNSもうまく活用していきながら、東京都の子育て情報をより多くの方に発信できるよう、引き続き力を入れて取り組んでまいります。

皆様におかれましても、一度ご操作いただいて、周りの方にもぜひご周知いただけますと幸いです。

私からは以上でございます。

**【事務局（平野）】** それでは、引き続きまして、「令和元年度の取組」ということで、昨年11月に実施しました子育て協働フォーラムについてのご報告をいたします。

事務局を担当しております福祉保健局少子社会対策部の平野と申します。よろしく願いいたします。引き続き、配付資料はございませんので、前方のスクリーンで、昨年11月に実施されました子育て協働フォーラムの実施報告をさせていただきたいと思っております。

まず、イベントの概要ですけれども、対象としましては、本とうきょう会議の協働会員の方、民間企業、NPO団体といった方々にご参加いただいたところです。そして、このフォーラムの目的としましては、団体同士の顔の見える関係づくりを行うことによって、自主的な協働の基盤づくりを行うということを目的に実施いたしました。

続いて参加人数でございます。申し込みをいただいた人数は、100名ほどいらっしゃいましたが、下の方に天候のことも書いておりますが、11月としてはかなり寒い雨の日でして、実際に申し込みいただいた中でご参加いただいたのが67名という結果でございました。

それぞれのプログラムについてですけれども、今回、午前10時から午後5時まで丸一日実施をいたしました。そのうち午前中は、基調講演とパネルディスカッションを実施しております。まず、基調講演では、日本NPOセンターの萩原様から「みんなの得意を集める子育て」とのテーマで講演をいただきました。続いて行われましたパネルディスカッションでは、本日もご出席いただいております、吉田恭子委員をはじめ、ご登壇いただきまして、「東京を子育てしやすい活力ある都市として発展させるために」とのテーマで、それぞれの活動内容や日ごろ感じていらっしゃる課題等について議論をしていただきました。

続きまして午後のプログラムですけれども、まずグループワークを実施いたしました。こちらは、参加者が3つのクラスに分かれまして、それぞれのクラスに講師の方がついていただいて実施をしております。自己分析や上手な団体のPR方法など、すぐに実践が可能で協

働に役立つ内容ということで実施したものでございます。

そして、最後に名刺交換会を行いました。それぞれの企業や団体等の資料を見ながら、交流を深める時間を設けたものでございます。

プログラムとしては以上になりまして、最後に、参加者の方にアンケートを実施しております。まず、各プログラムについての満足度と申しますか、参考になったか否かというところをお聞きいたしました。基調講演については、「とても参考になった」と「参考になった」を合わせて94%です。続いて、パネルディスカッションについても、95%の方から参考になったとの御回答をいただいております。午後のグループワークについては、100%の方から「参考になった」とのお答えをいただいております。名刺交換会についても同じです。

いずれのプログラムにつきましても、参加者の方が非常に高い満足度を得ることができたのかなと思っております。ただ、参加者のアンケートへの回答率がちょっと低かったというところがございますので、こちらについては来年度以降、こういった形でアンケートを集約していくかという課題があると考えているところでございます。

引き続き、アンケートの結果ですけれども、上半分が、このフォーラムに参加いただいたきっかけをお尋ねしております。回答として一番多かったのが「協働相手を探したい」、そして「協働について知りたい」、こういった回答が上位を占める結果となりました。また、「協働事業の課題」もアンケートでお答えいただいたんですけれども、「そもそも協働のやり方が分からない」という回答が一番多かったです。そして、「協働の相手が見つからない」、「人手不足」といった回答が続いております。このあたりのアンケートの結果も踏まえまして、来年度以降のフォーラム内容の検討を行っていきたいと思っておりますのでございます。

以上で、子育て協働フォーラムの実施報告を終わります。

**【松田会長】** ありがとうございます。主に2点に絞ってご報告をいただきましたけれども、ただいまの御報告に関しまして御質問や御意見等ございましたらいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

では、また後ほど、少し委員の皆様方と意見を交わす時間を設けたいと思っておりますので、そのときでも結構でございますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

それでは、続きまして、報告事項の2番、「東京都事業の紹介」について、事務局から御説明をお願いいたします。

**【松田労働環境課長】** 産業労働局雇用就業部労働環境課長の松田と申します。よろしく

お願いいたします。

私の方からは、産業労働局の取り組みを1つ御紹介させていただきたく思っております。お手元の資料3を御覧いただければ幸いです。こちらの資料でございますけれども、12月9日にプレス発表をさせていただきましたイベントの御案内でございます。先週、2月6日の木曜日にこのイベントを開催いたしまして、その実績報告も兼ねまして、今日お話をさせていただきたく思っているところでございます。

この「ライフ・ワーク・バランスEXPO東京2020」でございますけれども、国際フォーラムにおきまして先週の木曜日に開催させていただきました。このイベントでございますが、御案内のとおりでございますけれども、例年どおり、子育て応援とうきょう会議様の共催をいただいております。また当日は、国際フォーラムにおきまして、ブースを出していただいて御協力いただいたところでございます。この場をかりまして御礼申し上げます。

このイベントの案内、概要でございますが、まず表面のところを御覧いただければと思います。基調講演から始まりまして、パネルディスカッション、その他もろもろのセミナー等を開催したものでございます。このイベントの大きなテーマといたしましては、ライフ・ワーク・バランスの推進に向けた機運の醸成を図る、そのために企業や労働者が抱える課題についてさまざまな解決の手法を提案するというものでございます。当日は、多数の方に御来場いただきまして、盛大になったものでございます。

続きまして、裏面を御覧いただければと思います。このイベントの中で東京ライフ・ワーク・バランス認定企業というのを表彰しております。この認定企業の説明、上段のところ簡単に書かせていただいておりますけれども、「従業員が生活と仕事を両立しながら、いきいきと働き続けられる職場を実現するために、優れた取組を実施した中小企業等」を認定しているものでございます。このエキスポの当日に認定状を授与して表彰したものでございます。令和元年度に関しましては、27社から応募をいただき、この資料に掲載させていただいております7社をライフ・ワーク・バランス認定企業として決定させていただいております。この認定企業の内容につきましては、前回、第15回会議におきましてもお話しさせていただいているものでございますけれども、今回、このような形で発表させていただいております。

認定企業の対象でございますけれども、都内に本社または事業所を置きまして、常時雇用する従業員の数が300人以下の企業等でございます。外部審査員の方6名の審査会にお

きまして総合的な審査を行い、決定したものでございます。

ちなみに、この4つの大きな視点というのをお話しさせていただきますと、まず1つ目が、経営層を含めまして、社内全体で推進している取り組みであるということ、1つのポイントとさせていただきます。2つ目の視点としまして、社内の課題が明確化されておりました、利用実績があること。3つ目の視点としまして、従業員の意見を反映できる仕組みがあること。4つ目としまして、取り組みが社内に周知されており、利用実績があることというこの4つの大きなポイントをもとに、審査会の審査委員の先生方に御協議いただいたというものでございます。

今般、この7社の中から最も優れた企業をたたえる大賞に、上から2つ目の株式会社グリフィン様を表彰させていただきました。また、優良で特色のある取り組みを行う企業をたたえる知事特別賞といたしまして、上から4番目でございます、株式会社DACホールディングス様を発表しまして、表彰させていただいたところでございます。

この場を借りまして、この2社の取り組みについて若干お話をさせていただきたく思います。まず、大賞の株式会社グリフィン様でございます。千代田区の会社でございます、情報通信業、従業員数189名というところでございます。認定のポイントでございますが、「経営層・従業員が一丸となって総合的にライフ・ワーク・バランスを推進」というものでございます。やはりこの従業員と一体になってやっているというところを大きく評価させていただいております。具体的には、取引先に働き方改革の取り組みを説明し、協力を依頼することで時間外労働が減少したというところとか、匿名での意見投稿も可能な「御意見フォーム」を設置し、従業員から制度等の改善提案を受け付けましたと。また、上記の改善提案から、始業・終業時間の繰り上げ・繰り下げを子供の就学後も可能とする等の制度に変更しましたと伺っております。

続きまして、DACホールディングス様でございます。こちらのほうは、「従業員が多様なライフステージに合わせて意欲的に働ける風土づくり」を評価させていただいております。ポイントとしまして3つ挙げさせていただきます。「慣らし復帰制度」とか、「保育費支援制度」など、「DAC Working Style制度」という独自の制度を制定されている取り組みを評価させていただきました。あと、この会社ですと、経営者みずからがライフ・ワーク・バランス推進のロールモデルとなって制度の利用を周知しましたというところ。3点目でございますが、長期休暇前（年2回）に全社員を対象とした「仕事と介護の両立支援セミナー」を実施したというものでございます。こちらは台東区の会社でございま

す。という形で行っていました。

今年度の全体を通しての流れでございますけれども、やはり従業員のライフ・ワーク・スタイルに合わせた柔軟な勤務形態の導入であるとか、法定以上の育児支援制度などの整備、さらには両立支援制度の充実に加えまして、取り組みの推進に当たって、担当者のみではなくて経営層も積極的に取り組む姿勢、取引先と調整を行うなどの運用面の工夫というのをすごく感じられた今年度の認定企業だっただと思っているところでございます。さらに、経営者だけではなくて、導入に当たりましては、従業員の意見の反映も積極的に行っているという取り組みが多く見られたと思っているところでございます。

ちなみに、この会社の中には、下から2番目のブレイクスルー・ネットワーク様という会社でございますけれども、こちらは6名の企業でございますけれども、従業員の希望どおり、1年5カ月の育児休暇の取得を実現されたという認定企業も含まれておりまして、この会社の方に話を聞きますと、実際、実行するに当たりまして、いろんな会社から情報を得、またいろいろ勉強した上で実行に移したということで、その過程のところも我々は勉強にさせていただいたというところでございます。

以上が認定企業の御説明になりますけれども、総論としまして、昨年4月から働き方改革関連法が施行されまして、本年4月から残業時間の上限規制が中小企業にも適用されるということになっております。こうした中におきまして、ライフ・ワーク・バランスに取り組み、働き方の見直しを進めていくことは従業員の充実感や成長を促すだけではなく、企業にとっても生産性の向上や人材確保、職場における女性の活躍といった経営課題の解決などが進むなど、組織と個人双方により効果をもたらすと考えているところでございまして、我々産業労働局としましては、引き続きこうした企業の皆様の取り組みを後押ししていきたいと考えているところでございます。

雑駁でございますが、以上、報告を終わらせていただきます。ありがとうございます。

**【各務男女平等参画課長】** それでは、続きまして、東京都生活文化局の取り組みについて御報告申し上げます。生活文化局男女平等参画課長、各務でございます。

私どもからは、2点御報告がございます。まず1点目でございますが、男性の家事・育児参画状況実態調査についてでございます。資料の方が、4-1と4-2を両方御覧いただければと思います。4-1は報道発表資料、4-2は報告書の概要版になっております。

この調査の目的でございますけれども、未就学児の子を持つ夫婦等の家事・育児分担に関する実態や男性の家事・育児参画についての都民の意識調査を行いまして、今後の施策の参



考とするために行ったものでございます。昨年8月にインターネット調査により調査を実施しております。調査対象は、都内在住の男女5,000人の方、うち未就学児を持つ男女2,000人という調査対象でもって行っております。

調査結果のポイントでございますが、資料4-1の下の方に記載しておりますけれども、ポイントとして4点ございます。第1点目でございますが、子育て世代につかまして、女性の家事・育児時間が、家事時間、育児時間ともに男性の2倍を超えているという状況でございます。引き続き家事・育児への参画について、男女の差が大きいというところが1点目でございます。

第2でございますけれども、男性の育児休業取得のためには職場の雰囲気が非常に重要であるということが分かりました。回答を見ますと、育児休業を取得できなかった男性、それから希望どおりに育児休業をした男性、いずれも育児休業を取得しなかった理由、あるいは希望どおりに取得できた理由として、第1番に職場の雰囲気を挙げているところでございます。取得しなかった男性は、「職場が育児休業を取得できる雰囲気でなかった」といった回答。希望どおりに育児休業をとった男性については、「職場が育児休業を取得しやすい雰囲気だったから」といった回答が最多となっております。

第3点でございますけれども、男性の家事・育児参画に対するイメージについてでございます。詳しくは、4-2のホチキスどめしている資料の9ページに回答がございますので、あわせて御覧いただければと存じますけれども、「男性が家事・育児を行うことは、当然だ」という回答が約6割で、最も多くなっております。その他の回答も、9ページを御覧いただけるとお分かりいただけるかと思いますが、肯定的なイメージが多くなっているというところでございます。

第4でございますが、男性の家事・育児参画を進めていくために必要なこととお伺いしております。これにつきましては、「夫婦や家族の間のコミュニケーション」という回答が最も多く、次いで、「働き方改革などの環境整備」、それから「男性自身の抵抗感をなくすこと」などが回答として多くなっております。

4-1の裏面を御覧いただければと思っておりますけれども、詳細な報告書につきましては、東京都生活文化局のホームページに記載しております。また、私どもで運営しております男性の家事・育児を応援するサイト「パパズ・スタイル」におきまして、大正大学の田中俊之先生とファザーリング・ジャパン理事で東レ経営研究所のチーフコンサルタントでございます塚越学さんが、この調査につきまして対談形式で分析をしていただいている記事もござ

いますので、ぜひあわせて御覧いただければと思います。実態調査につきましては、以上で  
ございます。

2点目でございますけれども、資料5のチラシの方を御覧いただければと思います。「女  
性が輝くTOKYO懇話会 職場が変わる！ 意識も変わる！！～パパズ・スタイルはじめよう  
～」と題しましたシンポジウムでございます。小池知事とゲストが語り合いまして、男性の  
家事・育児を応援していこうという趣旨でございます。今度の日曜日、2月16日に開催の  
予定でございます。会場は、先ほどの子育て協働フォーラムの会場でもございましたが、表  
参道の東京ウィメンズプラザといたしております。ゲストはお二方いらっしゃいまして、メ  
ルカリの会長で、御自身も社長のときに育児休業を取得されました小泉文明さん、それから  
俳優でパパタレントとしてもご活躍の金子貴俊さんでございます。モデレーターは林田香  
織さんを予定しております。

先進的な企業の取り組みの紹介でありますとか、小泉さん、金子さんのパパとしての経験、  
それから先ほど御紹介いたしました調査結果の報告など、男性の家事・育児参画をもっと進  
めるためのヒントとなるような内容となっております。

お配りしたチラシの方で、1月31日が申し込みの締め切りとなっておりますが、まだ若  
干お席に余裕がございます。2月13日までお申し込みをいただけますので、皆様、ぜひ御  
参加いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

生活文化局からの御報告は以上でございます。

**【松田会長】** ありがとうございます。今、産業労働局と生活文化局の方から、関連する  
事業の御説明をいただきました。今の内容に関しまして御質問、御意見がございましたらお  
願いしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、これもまた後ほどお時間の中で、関連するような事項等がございましたときでも結  
構ですので、何か思われるところがございましたらお願いできればと思います。

それでは、引き続き、報告事項の(3)「令和2年度の主な取組について」に移らせてい  
ただきたいと思います。

では、事務局の方から御説明をお願いいたします。

**【桑田子供・子育て計画担当課長】** 子供・子育て計画担当課長の桑田と申します。とう  
きょう会議の事務局長も務めております。

資料6と資料7、続けて説明をさせていただきます。資料6ですけれども、子育て応援と  
うきょう会議の令和2年度の予算案となっております。とうきょう会議の予算につきまし

ては、東京都の予算が確定した後に正式に決定いたしますので、本日はあくまでも案としての御提示とさせていただきます。各項目を御覧いただきますと、やや増となっている項目が多くなっておりますが、こちらは令和2年度、消費税が通年で10%となることによるものとなっております。

また、大きく増減している項目で、子育て協働フォーラムと子供シンポジウムというのがございます。こちらは、子供シンポジウムという新規の取り組みをフォーラムの中に組み込むということによるものになっておりますので、この2項目全体で約500万円の増というふうに御覧いただければと思います。

続いて、次の資料7で、この新しい取り組みである子供シンポジウムについて説明いたします。資料の左上の「現状」ですけれども、とうきょう会議の事務局、先ほど申し上げたように福祉保健局少子社会対策部の計画課で担っておりますが、児童福祉を所管する部署にもかかわらず、これまで子供の意見を聞く機会が確保されていない、そういう課題認識を持っておりました。そうした中で、前回の全体会議で、子供が主体的に参画するイベントの企画ということについて御意見をいただいたところでございます。そこで、右側になりますけれども、このフォーラムのプログラムとして子供シンポジウムを開催し、子供の意見発表の場をつくり、子供との協働を進めていきたいと考えています。

具体的な内容ですけれども、左のスケジュールの部分を御覧ください。令和2年度につきましては、「社会全体で子供・子育てを応援する機運を醸成するために」、このとうきょう会議と同じことをテーマにしまして、参加してくれる子供たち、都内の在住・在学の子供たちになります。募集をいたします。応募してくれた子供たちには、2回のグループワーク、また個人研究を経まして、フォーラムにて意見を発表してもらいたいと考えております。

シンポジウムのイメージ図なんですけれども、このような取り組みは都として初めてということもありまして、ノウハウがないということがあって、とうきょう会議の構成団体でもございます学芸大学のこども未来研究所に委託をしまして、企画ですとか、子供のグループワークの支援などについて御協力いただく予定です。また、シンポジウム当日には、とうきょう会議の委員の皆様にもぜひ御参加いただきまして、子供たちの意見を聞いていただきたいなと思っております。

あわせて、グループワークですとか、子供たちの個人研究の内容によりましては、各構成団体の皆様に、例えばインタビューですとか、職場見学などをお願いする場合も想定されます。その際にはぜひ御協力をいただきたいと思いますと思っております。

なお、募集する子供の年齢なんですけれども、おおむね小5から高2程度を今は想定しておりますが、今後、中身を詰めていく中で多少狭めるということもあり得ますので、現時点での素案として御理解いただければと思います。今後詳細を詰めていきまして、新年度1回目の全体会議においては、詳しい内容を御説明できればと思っております。

説明は以上です。

【松田会長】 ありがとうございます。来年度の取り組みの内容、並びに予算案ということで御説明いただきました。これにつきましても、御質問、御意見等がもしございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。特に1つ、子供シンポジウムという新しい取り組みをなさろうとしているということでございます。よろしいでしょうか。

それでは、次の議事に移らせていただきます。本日は、さまざまな分野の皆様がお集まりいただいております貴重な機会でございますので、実はこの会議にイメージキャラクターがございますが、この認知度向上について、ぜひ皆様方からの御意見をいただければというような事案でございます。

では、まず事務局のほうから御説明いただければと思います。お願いいたします。

【事務局（平野）】 事務局の平野です。

前方のスクリーンに表示をしておりますが、こちらが子育て応援とうきょう会議のイメージキャラクターとなっております。このイメージキャラクターの認知度向上ということで、委員の皆様にご意見をこれから頂戴したいと思いますが、その前に簡単に概要等を御説明したいと思っております。

まず、名称というところで、皆さんお気になさるところかも知れませんが、このキャラクターに名前はついておりません。このキャラクターがつけられた当時にも名前の検討は行われたようなのですが、商標登録の関係等で名前をつけるには至らなかったと聞いております。作成されたのが平成20年3月27日ということで、このとうきょう会議が発足したのが平成19年10月ですので、同じ19年度の会議体発足後、間もなく作成されたというものでございます。

続いて、商標権ですけれども、都とこの会議の事務局長での共有という形になっております。ですので、構成団体の皆様や協働会員の方が何か資料等をつくる際にも、このキャラクターを無償で御自由にお使いいただくことができますので、子供と子育てを応援するシンボルとして、広く都民の目に触れる機会が広まっていくればよいなと思っております。ところでございます。

最後に、活用状況として掲載しておりますが、現在、都の事業として実施しております子育て応援とうきょうパスポートの協賛店に張り出しておりますステッカーにもこのキャラクターを使用しておりますし、利用者の方がお持ちになるパスポート、あとはこのとうきょう会議のグッズ等も作製しておりますので、その中にこのキャラクターを使用したりしているという状況でございます。

事務局からの概要の説明は以上となります。委員の皆様から、さまざまな認知度向上のアイデアをいただければ幸いと思っております。よろしく願いいたします。

【松田会長】 ありがとうございます。近年、イメージキャラクター、キャラクターというものがよく話題になる場合が多いんですけれども、やはり活動においてシンボルというのは非常に重要な存在かなと感じるときも多うございまして、さまざまなお立場から、ぜひこういう取り組みをより広く知っていただくためにも、このイメージキャラクターをどういうふうに、ある種売り出していけばいいのかといいますか、そういうことについて少し御意見、あるいはこの流れも含めた御質問も含めまして、いただければと思いますが、いかがでしょうか。どなたかが何か口火を切っていただきますと、わっと意見が出るような気がするんですけれども、いかがでしょう。

お願いいたします。

【吉田（恭）委員】 これは、いわゆる紙媒体だけというか、二次元のものだけなんですよね。いわゆる着ぐるみであったりというふうなものは何もないということですね。やはり私どもでもいろんなイベントをしたりするときに、市のキャラクターに来てもらったりいろんなことをするんですが、特に子育て世代に関しては、身近にパタパタと触れられるとか、声が聞こえて一緒に踊れるというふうな実際の触れ合いができることがとても大きな要素に、親しまれる要素になっていると思うんです。パスポートに印刷してあるよとか、それだけではすごく弱いなという気がいつもしているんですが、そのあたりはいかがなんでしょう。もちろん、予算の関係もあるので、できること、できないことはあるかなと思うんですが、そのあたりの工夫とかは何かお考えなのでしょうか。

【松田会長】 ありがとうございます。もう少し委員の皆様からご意見をいただいて、事務局のほうから返していただけたところは返していただくという形で進めさせていただければと思います。

確かに着ぐるみといいますか、動くキャラクター、そういうものの持つ力というようなことでございますけれども、そのほかはいかがでしょうか。今のことでも、もちろん関連して

でも。

お願いします。

【羽生委員】 日経xwomanの羽生です。

メディアで、キャラクターをプロモーションしていくことを日々しているんですが、一枚絵だとやっぱりユーザーにとってはあれなので、何か動きがあるといいなと思っていました、今おっしゃられたように、動きの一環として立体でリアルで見せるというのがありますし、あとは、せっかくサイトのほうをリニューアルされたということなので、SNSなどで、子育て中のお母さんのコミュニケーション手段の今や9割以上と言われているLINEのスタンプなんかにして動きをつけたら。ちょっとこれは正面からだけど、お母さん役なのかな。お父さん役なんですかね。ペアレンツみたいな人が名言を吐くとか、「お父さん、今日、早く帰ってきて」というのをちっちゃい子供の人に言わせるとか、そういう感じで。

LINEのスタンプはコミュニケーション手段として一番今パワーがあると言われていて、無料で配布するというのは相当額の資金をLINEさんにお払いしなきゃいけないので、一番ミニマムで50円で売れるというのがありまして、50円で販売すると無料でそういうコミュニケーションウェブに参加できるので、そういうデジタルに活用するのもいいかなど。

それから、せっかくこの子供シンポジウムというような子供が参加するという素敵な切り口がこの令和2年度から始まるようなので、このキャラクターも子供がさわれるような感じで、今全部、保護者が使うようなたてつけなんですけど、子供が何かタッチできるような折り紙だったり塗り絵だったり、子供も一緒に使うというような発想もあるといいのかなと思いました。

以上です。

【松田会長】 ありがとうございます。確かにLINEのスタンプというのは、「ありがとう」という言葉で、その後にスタンプが来ますと、あるいは言葉のかわりにスタンプが来ますと全然違うコミュニケーションになりますね。ほんとうに大勢の方がそういう形でやられていると思うんですが、そのほかいかがでしょうか。

お願いします。

【毛利委員】 毛利です。

名称は決まっていないということなので、都民の皆さんに公募をして、それに伴い認知度も上がるのではないかなと思います。荒川区もイメージキャラクターができたときに、区民

の皆さんに募集をして、「あら坊」、「あらみい」というかわいいキャラクター名になりました。それと着ぐるみもあります。区が出すものは全部そういうマークが入っていたりしていますので、まず名前は先に決めたほうがいいんじゃないかなと思います。

以上です。

**【松田会長】** もし委員の皆様方から名前アイデアがございましたら、それも披露いただきながら。もちろん、公募するというあり方もほんとうに重要だと思うんですが。そのほかがいかがですか。

お願いします。

**【松田（妙）委員代理（入江）】** すみません、初めて参加いたします。せたがや子育てネットの入江と申します。

私も実際、今幼い子供を抱えている者なんですけれども、ちょうど2020年に五輪がありますので、皆さん、子連れで観戦しに行ったりという方がたくさんいらっしゃると思うんですね。そのときに気になるのが、外出先のおむつ替えスペースですとか、休憩室とか、水分補給のスペースとか、母親や父親が気になるスポットにこういったマークを対応して、子供イコールこのマークみたいなきっかけをつくってみるのもよろしいのではないかと思います。

以上です。

**【松田会長】** ありがとうございます。確かに今年はオリンピックということがございますので。ほんとうにもものすごくドキドキするようなアイデアをたくさんいただいているところなんですけれども、事務局の方から今までのお話を聞いていただいて、何かもしコメントがございましたらお願いしたいと思います。

**【桑田子供・子育て計画担当課長】** いろいろ御意見をいただいてありがとうございます。中には予算措置が必要なものもございますので、持ち帰って検討ということになると思います。また、名前につきましても、名前をつけたいという思いもありつつ、名前のないまま10年以上が経過して、どういったきっかけで名前を募集しようかなというのも考えていかなければいけないと思っています。

それから、難しいのが、東京都庁、実はこういうキャラクターがすごくたくさんある中で、子供関係の一番有名なのは、多分「OSEKKAIくん」かなと思うんですけれども、OSEKKAIくんは実は着ぐるみがあったりして、そういういろいろなキャラクターの中で勝ち抜いていくためにはどうしたらいいのかということも考えていかなければいけないのかなと今お話を

聞いていて感じたところでございます。

今いただいた意見につきましては、主に行政側、東京都側にこうしたらどうかという御意見でしたので、ぜひ構成団体の皆様として、こういうことに取り組んで認知度向上に自分たちとしてもこういうことができるよという御意見があったら、あわせてお聞かせいただくと大変ありがたいと思います。

【松田会長】 ありがとうございます。

お願いします。

【糸原委員】 このマークをあまり見る機会がなくて、かわいいマークだなと、この会議に出ていると見ることはあるのですが、例えば、あまり費用がかからないというところで、東京都が主催するイベントのパンフレットなどにもいろんな機会に載せていくとか、そういうことでしたらあまり費用がかからないかなと思ったりします。あの赤いのは東京タワーなんですかね。キャラクターの。

【桑田子供・子育て計画担当課長】 東京タワーです。

【糸原委員】 そうなのですね。東京都の子育てのシンボルということなんだろうなと思ったのですが、そういうのを何か、ちょっとコメントで載せるというのもいいかなと思いました。

以上です。

【松田会長】 私が伺った一説によりますと、東京タワーでもあり、サンタクロースもイメージされているんじゃないかみたいな、そういう。これは俗説でございまして。

お願いします。

【吉田（恭）委員】 たびたび申しわけありません。吉田です。

私どもとしても、子育て関係の仕事もしていますので、何かの機会に使えていたらなと思うんですが、いかんせん個性がないので。要するに、先ほども立体にとかスタンプというお話もありましたけど、やはりこのキャラクター自体に個性がないので使いようがないというか、ただ単なるイラストに過ぎない。ページが地味だったらちょっと張ろうかな。でも、それも突然何なんだろうなというふうなことになるので。

大体、どこでも今、ゆるキャラなんかでも、何年にどこで生まれましたとか、こんなことをやってきましたというふうな個性づけがされているんですね。そこから出てくる、例えばちょっとしたコメントだったり、例えば印刷物に載せるにしても、先ほどのスタンプとも共通すると思うんですが、このキャラクターがしゃべる一言がちょっとおもしろいとか、この



子ならではのこういうセリフ、それは出てくるよねみたいな、そういう納得感があるキャラクターづくりみたいな、ほんとうの意味でのキャラクターづくりをしていくと、私たちとしてももうちょっと何かのときに吹き出しがあるものを使うとか、この子だったらきっとこうするよねみたいな形だったりというふうな活用の仕方がしやすいかなとは思っていますが。

【松田会長】 ありがとうございます。

【阿部委員代理（木村）】 JR東日本でございます。すみません、今日は代理出席で木村と申します。どうぞよろしく願いいたします。

企業の取り組みとして、弊社より3点ご提案させていただきます。まだアイデア段階ですが、1つは、現在、弊社で展開しております駅型保育園や、子育ての支援施設を首都圏の沿線に設置しております。そのような施設へのステッカー掲出にご協力できるものと考えております。

2つ目として、弊社では「まもレール」という取り組みを行っています。お子様が改札をSuicaでタッチして出るときに、現在位置を知らせるという取り組みです。4月1日から東京都交通局様や東京メトロ様にもご参画いただき拡大して首都圏の495駅に拡大する予定です。これに関するホームページのバナーにリンクを貼ることも一つのアイデアとしてございます。

最後に3点目は、先ほど着ぐるみというお話がでしたが、鉄道が好きなお子様向けに駅や車両基地でイベントを弊社で開催しておりますので、そのようなイベントに来ていただけると認知度の向上に寄与できるものと考えます。以上です。

【松田会長】 ありがとうございます。

お願いします。

【真島委員】 連合東京の真島ですが、そもそもみたいになって恐縮なんですけど、このマークによってその到達目標は何なのか。つまり、例えがいいかどうか分からないんですけど、マタニティーマークみたいな、つまり、あれを見れば席を譲るというものすごくシンプルな構想がいいなと思っていて、このマークは、協賛している企業とか団体を増やしたいということがもしその一番の目標ならば、そこに傾注するというんでしょうか、これを見れば協賛企業がこんなにありますよというようなイメージを目標としては持っているのか、というところが定まっていなかったらすごく申しわけないのですが、これを見れば一目瞭然みたいなものの方針みたいなものがあるといいなと思います。

その点で言うと、ホームページを見させていただいたんですけども、行政サービスは各

区市町村別になっているんですけども、つまり、この企業のところも、私たちが見るところからすると、うちの住んでいるところにはこういう企業がいるんだみたいなサイトというか、そういうたてつけになっていないような気がしたので、そういう関係性みたいなものをうまくできるといいなと思いました。

以上です。

【松田会長】 ありがとうございます。

【高橋委員】 百貨店協会、高橋です。ありがとうございます。

私もこのマークを見て、百貨店だったらどこに使える、どこに掲出したら皆さんどう思っただけなのかと考えたときに、やはりおむつ替えスペースとか、授乳施設に貼って周知するのかと思っております。ただ、今掲げても、このマークイコールその施設という結びつきが全くないので、まずはこのマークを、委員皆様からもご意見があるように、何につけて何をあらわすものを明確にしてからにしないといけない。もう少し我々で目的を明確にするために育てましようというのが、意見ですが。

以上です。

【松田会長】 ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。

【広島委員】 私も第1回目から参加させていただいているんですが、年に2回ここに参加して初めてそうだというふうに、非常にだらしない話なんですけれども。そもそも論からちょっとお聞きたいんですが、子育て応援とうきょう会議の目指すもの、先ほどお話が出ましたけれども、これは実は少子化の問題も当然絡んでくるんだろうと思いますし、今言ったとおり認知度を高めるということだけで過ぎるのか、目指すところはどこなのかということもありますし。

それからもう一つは、キャラクターと子育て応援会議というのは全然リンクしていないと思う。言葉としてはなっている、子育て応援とうきょう会議ということすらまだまだ認知度そのものが、会議ではありますけれども、戻っちゃうとそれで終わりにになってしまう。この辺の、会議そのものが何を指すかということも含めてもう少し、例えば知事の定例会見でこういう話を入れてみるとか、毎週やっている中できっかけとして入れていただくとか、それがすぐキャラクターに結びつくかどうかは別として、こういうものがあるということが、そもそも認知度がまだ低い。

先ほど、新たなフォーラムをやるということですが、これにしても、やはりやるからにはそれだけのものを、認知度を高めていくということを前提にしたものをしていかなければ、

自己満足で終わってしまうんじゃないかという懸念が、私自身も、自分自身の至らなさでもあるんですが、そのように感じます。そもそも何を指すかということをもう少し明確にしていくことが、特に東京都には大きな幾つもある中での1つのものですから、おそらく沈んでしまっちゃう部分があるのではないかと思います。

以上でございます。

**【松田会長】** 何のためにという非常に本質的な議論との関係ということで、確かにそういうことを確認しつつ手前のものを考えていくというのは大事なことだなと思ったりもします。

このキャラクターが生まれた背景だとか、あるいはもう一度、この本会議の狙っているもの等々も含めまして、今までのご意見を伺われていて、もし事務局のほうから少しコメントがあればいただければと思いますが、いかがでしょう。

**【桑田子供・子育て計画担当課長】** とうきょう会議のそもそもの目的というのが、東京において社会全体で子供や子育てを応援する機運の醸成ということで、機運の醸成という非常に目に見えにくい、数値化しにくいといえますか、成果がわかりにくいものではあるんですけども、社会全体で応援をしていくというところで、行政だけではなく、さまざまな企業ですとか団体様に構成団体に入っていただきまして、このような会議を開いているところでございます。

キャラクターにつきましても、子育てを応援する機運醸成のためのシンボルとして作ったものなんですけれども、今さまざま御意見をいただいたように、シンボルとしての十分な位置づけですとか定義づけというのが確かに弱い部分があったということで、それは東京都側として反省しなければいけないと思っております。キャラクターにつきましては、いろいろ御意見をいただきましたので、もう少し深みのあるキャラクターといえますか、そういったことも考えていきたいと思っておりますし、2年度に行います子供シンポジウムにおいて、子供からの意見もぜひ聞いていきたいと思っておりますので、このキャラクターの認知度を上げるということが社会全体で子育てを応援する機運の醸成につながるようなキャラクターの立ち位置にしていきたいと思っております。

今、子育て中のお父さんやお母さんが、外出のときに非常に気詰まりな思いをする、冷たい態度をとられるというようなことが言われておりますので、そういったところを社会全体で変えていく、子供や子育て家庭を温かく公共の場でも見守っていけるような、そういう雰囲気づくりに寄与できるようなキャラクターでありたいと思っておりますし、とうきょう会議

の取り組みがそういうことにつながっていくような形で事務局としてもやっていきたいと思っております。

すみません、きちんとしたお答えになっているかわかりませんが、以上です。

**【松田会長】** ありがとうございます。おっしゃるとおりといたしますか、機運の醸成というのは確かに重要なことで、ただ、その機運の醸成というのは具体的には何を指すのかとか、どこへ働きかけるのかというのは、むしろこういう会議で考えていくことではないかというところもちょっとあって。

今、反省という言葉が使われましたけれども、それはそんなに反省していただくなくてもいいんじゃないかとすごく思っています、子育てもそうなんですけれども、目標を定めて、それにきっちり合わせて子供を育てるなんていう子育てというのは、いろいろ問題が含まれる場合も多いというようなことも言われますので。もちろん行政と全く一緒ではないというのは、今のはちょっと脱線したネタでございますけれども。

むしろこの状況とか、ほんとうにかわいいキャラクターですし、そういうある種、リソースがいっぱいあるわけですから、そういうものを使ってこの会議で何ができるのかとか、どういうふうにしていこうということを皆さんで考えていくために、多分皆さんも集まってくださっていると思いますし、東京都のほうもそういう形で支えてくださっていると思いますので、そういうようなことで、シンボルに力を与えていければいいなと私なんかは思ったりしますけれども。いかがでしょうか。何か思われることはございますか。

**【笠原委員】** 東京学芸大学の笠原です。

いろんなイメージキャラクターがたくさんありますので、それをどんなふうに認知してもらって、今お話を聞いていると、とても難しいんだなと改めて思いました。今のお話で、おそらく子育てに関する総合的な機運をどう醸成していくかということで、一方で、先ほどのおむつ替えのあれもありましたけれども、キャラクターやああいうものが、いわゆるイメージとして使われる場合とサインとして使われる場合の2つがあると思うんです。ですので、例えばおむつであったり何かであったり、そういうのは非常に分かりやすい、そういうサインとして機能するようなもの、これがそういうふうになるかどうかはわかりませんが、何かそういう使い方というんでしょうかね。一方で、いわゆるイメージというんでしょうか、いろんなイメージを担えるという、まさに着ぐるみなんかさうだと思えますけれども、そういう使い方なんかはどんなふうに、こういうあるリソースの中で新たにプロデュースしていくのかなということかと思えます。

1つ、先ほどJRの電車のおもしろいコンテンツが流れていますから、何かあいうキャラクターを使って、例えば子育て応援川柳のようなものを漫画にしてもらったようなものがコマで変わるとか、そういうものでちょっと遊んでみるみたいな、何かそういうのも。課題を直接解決するわけではないんですけども、そういうのもおもしろいかななんて、ふと思いました。

【松田会長】       ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

【吉田（恭）委員】     たびたび申しわけありません。今、子育て機運の醸成というほんとうに目に見えにくい目標を着々とつくっていくかなければならないというのはとても大変なことだと思うんですが、今、私どもも、子育て世代やいろいろな世代の方と交流していく中で、子育てのしにくさというのはほんとうに痛いほどの意見をたくさん聞いております。ただ、そのしにくさの根本というのは、ある意味、周りの無理解であったりとか、決して悪意ではないけど、知らないからこそそうになってしまうような事例がたくさんあるんですね。最近では、二人乗りのベビーカーのこととかが注目されたりしておりますけど、いろいろな、今現実に困っている人たちが、昔の子育て世代、私たちとか旧世代にとっては、子育ての状況が変わっているのでなかなかその大変さが実感できないというふうなところから、何で今の若い人はこんななの？ みたいな冷たい視線が出てきちゃうということはあると思うんですね。

なので、やはりまず子育てしやすい機運をつくるためには、多世代の、多くの世代の理解というのが必要だと思っております。そのために、この会議だけではなくて、例えば1つの所管課、部だけでできることというのはやはり予算にも限りがあると思いますし、できること、限りがあると思うので、例えばお役所の中には、いわば高齢者の部だったり、福祉関係の部だったり、いろいろなセクションがあるので、そのセクションの中でちょっとした、今の川柳なんかもそうだと思うんですけど、例えば中高年の方、高齢者の方に子育てに関する川柳を募集してみるというふうなことでほかの部局との連携みたいなところ、子育てのところちょっと串を通すような形での連携、いわゆる協働ができれば、まずお役所の中でそういった意味での協働ができればもっと動きやすくなるし、いろいろな形でもっと広範囲に効果を出せるんじゃないかと思っております。

以上です。

【松田会長】       ありがとうございます。あわせまして、先ほど事務局のほうからもござい

ましたけれども、一方で、ここには非常に多種多様なお立場の皆さんが来てくださっていますので、それぞれのお立場からこれを生かしていくとするとどういう生かし方があるかなんていうのも、もし加えてアイデアがございましたら、いただけましたら大変ありがたいところでございますが、いかがでしょうか。

お願いします。

**【広島委員】** 日本こども育成協議会の広島でございます。

私も保育園でございますので、むしろこういうことが非常に盛んになることによって、今、外国籍の方も多様な方がおいでになっていますので、むしろこういうイメージから入っていけるということが非常に大事なと思います。そういう意味では、多様なことが子育てにかかわる1つのシンボルになればと思いますし、予算の問題もありますからなかなかできないでしょうけれども、各保育園の現場等に何らかの形でこういうことが行き渡るような、そうしたことがあれば非常にありがたいと思います。

現場としては、確かにこの会そのものもでしょうけど、子育て支援ということは、我々はほんとうに常日ごろ、日常的なこととして捉えていく立場でもございますので、こういうことが機能していくということは非常にありがたいことだと思っております。よろしく願いします。

**【松田会長】** ありがとうございます。ほんとうに活発な御議論をいただいておりますので、時間のほうも随分過ぎているところですが、もしこの案件でこれだけはといいますか、もう少しここをお話ししておきたいということがございましたらお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

**【内野委員】** 東京都私立幼稚園連合会の内野と申します。お世話になります。

今、保育園さんもそうだと思うんですけど、幼稚園でよく「ゆりーとと遊ぼう」なんていうイベントを無料で行うということで使わせていただいているんですが、「ゆりーと」って、2013年の国体のときのキャラクターですよ。あのときに集中的に東京都がPRしていただいたので、いまだに、その経験のない子供たちでも、ゆりーとが来ると喜ぶんですね。これをやっているのは株式会社バード・アイということで、千葉のマスコットとゆりーとを無料で出前してイベントをやるよということで。

ただ、無料なんですけれども、集合写真を撮ってそれを販売するという、よく航空写真なんかでやるような手法で収益を上げているんだと思うんですが、そういうところに、ゆりーとは申請書を出すと無料でそのキャラクターを使えるというところがあると思うんですけ

ど、このキャラクターは名前がないことがなかなかこういう会議のときに土俵に上げにくいので、名前があるといいなと思うんですが、これは東京都さんとしては、無償でそういう株式会社のイベントにも使用許可を出す方向性というのをお持ちなんですか。

【桑田子供・子育て計画担当課長】 まず、構成団体と協働会員に御登録いただいています。まず団体が今600ほどあるんですけども、そちらにつきましては、特に申請していただかなくても自由に使っていただけます。それ以外のところでも、イベントの趣旨とかを確認させていただいて、できれば、登録無料なので協働会員に御登録いただいた上で御使用いただくということでは可能です。

【内野委員】 そういう、皆さん、今御登録なさっている企業さんとか、例えば私どもで言えば加盟各園であるとか、例えばPTA新聞なんかは年に2回出しているんですけども、園児さんは今14万人ぐらいですか、のご家庭に年2回出すときに、今私どもの団体が行っている「こどもがまんなかPROJECT」のキャラクターを載せているんですが、それと一緒にこのキャラクターを入れるとか、いろんなどころにそういうのが見えてきて、ある、ある、ある、あるとなってきた後に、先ほどの着ぐるみみたいなものが各園を回るようなところを、先ほどのバード・アイさんみたいなところがイベントと組み合わせて損をしない形で、収益を出す形でやるようになると根強く広がっていくのかなと思います。そういう、その次のステップが見えていけば、みんなでこのキャラクターを使ってみようよという運動の励みになるんじゃないかなと。

その後、このキャラクターがあるところでは、子供にかかわる事業所であったりとか、あるいは子供を大切にするJRさんであったりとか、子供を大切にする百貨店さんであったりとか、そこのマークがあるところに行くと、何かしらお母さんにとってメリットがある、お父さんにとってメリットがあるというようなことにつながってくれば、一気に広がっていくこともあるのかなと。保育園さんや幼稚園さんの小さな子たちが親しんでくれると、あるいはその保護者たちが親しんでくれると、代がどんどん変わっていくたびに卒園生たちに周知されていきますので、そうなってくると使いがいがあがるかなと思います。意見でございます。

【松田会長】 ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

大変活発な御意見、御議論をいただきまして、最初にも少しお話ししましたが、このとうきょう会議というのは、ネットワークという形でそれぞれの参加者が主体制を持つ

て、そしてつながり合って東京の子育てを考えようという会だと思しますので、そういう意味で、御自身の方でどうこれを使っていこうという御意見をたくさんいただきましたし、またその扇を広げるような形で広がっていくと、要になっているのが東京都、都庁というところもあると思しますので、その双方向で今日の議論を生かしていただきながら、また進めることができればなと感じて聞いておりました。ありがとうございます。

そうしましたら、予定されている時間も残り15分ほどですけれども、この件以外に、もし本日の議事で何かございましたら、委員の皆様方から御質問、御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、会議の方で予定させていただいております内容は以上でございます。

では、ここで、最後に事務局から御連絡事項がございますので、事務局の方に司会を戻したいと思います。よろしくお願いいたします。

**【遠藤子供・子育て施策推進担当部長】** 松田会長、また委員の皆様、本日は貴重な御意見をたくさんいただきまして、ほんとうにありがとうございました。心から御礼申し上げたいと思います。いただいた御意見を踏まえまして、子育て応援とうきょう会議の運営に当たっていきたく思いますので、今後ともぜひ御協力のほどよろしくお願いいたします。

事務的な連絡になりますが、本日の配付資料につきましては、お持ち帰りいただいても結構でございます。机の上に置いていただければ、後日、郵送させていただきます。

来年度でございますが、全2回開催を予定しております。日程調整につきましては、改めて事務局より御連絡をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

最後になります。お帰りの際、入庁のときにご使用いただきましたICカード、一時通行証が必要となりますので、御持参いただきまして、1階か2階のエレベーターホールのゲートで返却いただければと思います。

それでは、以上をもちまして、子育て応援とうきょう会議の第16回全体会議を終了いたします。大変ありがとうございました。

— 了 —